



第11回

南阿蘇鉄道的全線再開

※2023年7月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

「こっちの方が感激してしまっ
た」――。7月15日、全線で運行

市中心部にもアクセスできるよう
になった。

を再開させた南阿蘇鉄道（南鉄、
熊本県高森町）。その始発を担っ
た名物運転士、寺本顕博さんは定
刻通りに終点の立野駅（同県南阿
蘇村）に到着後、涙ぐんだ。沿線
沿いの家々や水田のあぜ道で多く
の人が運転再開を祝し、電車に手
を振る姿に感極まった。

始発列車は午前6時、2両編成
で高森駅から出発した。軽快なト
ークで沿線の観光案内で知られる
寺本さんだが、この日は「まずは
安全に気をつけた」と口数は少な
め。緊張は隠せなかった。

南阿蘇鉄道は2016年4月14
日の熊本地震と2日後の余震で大
きな被害を受け、これまで高森（高
森町）―中松（南阿蘇村）間、7・
1キの運行だった。この日、不通
だった中松―立野（南阿蘇村）の
10・6キの間も運転が再開し、J
R豊肥線の乗り入れも開始、熊本

高森を出て見晴台、南阿蘇白川
水源、阿蘇白川、中松、とこれま
で運行していた区間を通り、南阿
蘇水の生まれる里白水高原、阿蘇
下田城、長陽、と不通だった区間
に入る。どの駅でも、多くの人が
手旗を振り「おかえり」と声をか
ける。横断幕も掲げられ、寺本さ
んに花束が贈られた駅もあった。
遠くから足を運ぶ人も。京都市

から来た男子大学生は「南鉄の不
通区間が全国で唯一乗れていな
った区間なので、再会の日に乗
てうれしい」と興奮気味に話した。

無事に運行を終えた寺本さん
は「あっという間でした。特別
な一日になった」と話した。

午前11時から高森駅で記念式
典もあった。南阿蘇鉄道社長で
高森町の草村大成町長は地震発
生当時を振り返り、「廃線を考
えなければならぬほど被害は甚
大だった」と延べた。一方、利
用できる制度を使って全線運
行再開までこぎ着け、「国、地
方公共団体、民間の大きな力
が発揮されたお手本のような
復旧だったと感じている」と
胸を張った。

12時20分には、式典列車が
出発。かけ声は地元の高森高
3年の男女が担った。2人は
これまで、減便運行となってい
た南鉄では時間が合わず通学
に使いなかつた。週明けから
は念願の列車通学だ。女子

生徒は「南鉄は景気が良いので
来週からが楽しみ。とてもワ
クワクワしている」と目を輝
かせていた。

再び動き出した南阿蘇鉄道は、
住民の足、観光列車として、
これからの地域の核となること
が期待される。